

事務事業評価

平成 31 年度

担当課 福祉課

基本事項	事務事業名	病院群輪番制病院運営事業			整理番号	0910
	根拠法令等	事務局当番市の補助金交付要綱			実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第 8 章 健康で生きがいある生活を支える	▼	▼	▼	▼

事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	市民が安心して日常生活を過ごすため、終日受け入れ可能な二次救急医療体制の整備を図る必要がある。			計画期間	始期 昭和 53 年度から 終期 平成 年度まで
-------------	----------------------	---	--	--	------	-----------------------------

事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	休日及び夜間における入院治療を必要とする重篤な救急患者の医療について、島原半島内の病院群が共同連帯して、輪番制方式により初期救急医療施設からの患者や救急搬送者の受け入れを行い、市民の安心確保と健康を守る。
--	--

目的達成のための 具体的手段・方法	二次医療圏である島原半島内のブロックごとの(救急告示病院等の)病院群(東ブロック:島原病院、柴田長庚堂病院、泉川病院 西ブロック:愛野記念病院、公立新小浜病院、哲翁病院)の輪番制運営にかかる経費の一部について、医療機関の当番日数に応じて半島三市で連帯して支援する。(但し、島原病院にかかる経費を除く) 三市は2年ずつ輪番で事務局を受け持ち、事務局となった市が他の二市から負担金を受け入れ、医療機関へ補助金として支出する。 ※補助単価 : 71,040円×0.3333×実施日数 ※三市の負担割合 : 均等割30%、人口割70%
----------------------	--

成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)	単位	29 年度	30 年度	31 年度	
			①休日及び夜間に島原半島内の医療機関が輪番制で、入院治療を必要とする重篤な救急患者を受け入れる体制を整える。	目標		
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①市内の医療機関数	実績				
		達成率				
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	②市内の診療日数	目標				
		実績				
		達成率				
		目標	機関	2	2	2
		実績	機関	2	2	
		目標	日	276	276	276
		実績	日	276	276	

事業費等の推移	区分	年度		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2 年度
		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画		
①直接事業費(千円)	国 県 支 出 金	5,201	5,117	5,183	5,215	5,279	5,279		
	地 方 債								
	そ の 他								
	一 般 財 源	5,201	5,117	5,183	5,215	5,279	5,279		
②従事職員給与費 b1×b2	従事職員数(人) b1	595	599	604	613	602	602		
	職員平均人件費 b2	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08		
	職員平均人件費 b2	7,438	7,484	7,546	7,663	7,530	7,530		
	事業費合計 ① + ②	5,796	5,716	5,787	5,828	5,881	5,881		

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 休日・夜間の重篤な救急患者を受け入れる体制の整備は、安心して生活していくうえで不可欠	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 救急医療など収益性の低い事業であり、行政として一定の支援が必要	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 半島内の三市及び6病院が連携して実施している。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 半島内三市及び6医療機関が連携して実施することにより、重篤な救急患者を受け入れる医療体制が確立できている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある この事業は、初期救急では対応が困難な重篤な救急患者に対して適切な治療を施す受動的な事業であり見直しは困難。	A
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 休日・夜間の重篤な救急患者受け入れという受動的で収益性の低い事業であるため、コストの縮減等は困難。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 休日・夜間における重篤な救急患者に対して適切な治療をおこなうための事業であり、効果的な代替手段がない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 半島内三市及び6病院が連携して実施することにより、重篤な救急患者を受け入れる医療体制の確立ができている。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 輪番制により、休日・夜間の重篤な救急患者の受け入れが行われており、患者は医療保険制度で定められた医療費の自己負担を行っている。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均 (3点満点)			3.00
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない)	判断理由	休日・夜間における重篤な救急患者に対して適切な治療をおこなうための事業であり、半島内3市及び輪番群6病院の連携により医療体制の確立ができていることから、今後とも継続して実施していく必要がある。
	<input type="radio"/> B 改善・見直しを行う		
	<input type="radio"/> B1 事業規模の拡充		
	<input type="radio"/> B2 事業規模の縮小		
	<input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し		
	<input type="radio"/> B4 その他の見直し		
<input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更)			
<input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)			
今後の課題及び改善策、見直しの状況		(実施上の課題等)	
<p>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。</p>			

【2次評価】

総合判定	A 継続実施 (特段の見直しは行わない)
備考	休日・夜間における重篤な救急患者の診療を受ける体制を整える事業であり必要性は高いと考える。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	-71 (千円)